

すいひんでんしゃ

水浜電車の歴史

鹿島臨海鉄道が開通する前、戦前は水浜電車、戦後は茨城交通水浜線として、水戸市と大洗町とを結んだ鉄道です。開業は大正11(1922)年の12月。水戸市側は袴塚を発し、大洗町の市街地を抜け、先代の海門橋を渡り那珂湊へとつながる最長運行距離20.5kmの路線でした。このポケットパークはその廃線跡に建っています。

曲松を降りたところにあった磯浜築港は、大正時代後半頃から絶好の海水浴場となり、海水浴客の多くが水浜電車を利用しました。借楽園の観梅の時季などは、着飾った花電車を運行して祭りの雰囲気盛り上げました。水戸へ向かう通勤や通学、あるいは行商の足としても、人の往来や地場産業の発展に重要な役割を果たしました。しかし、自動車の普及に押された昭和41(1966)年6月、営業を廃止しました。



大洗町における営業区間の推移

